

## 新技術等 概要説明資料

※登録番号

R3-1

※登録年月日

R3年12月1日

※受理番号

令和3年度登録-1

1 新技術等の名称	新軸組ログハウス工法			
2 分類 (該当するものに○)	新技術	新工法	新製品	申請年月日
	○	○		R3年9月15日
3 キーワード 複数記入可 (該当するものに○)	安全・安心	環境	情報化	コスト縮減・ 生産性の向上
		○		
	公共工事の 品質確保・向上	景観	伝統・歴史 ・文化	リサイクル
4 開発目標 複数記入可 (該当するものに○)		○	○	○
	省人化	省力化	経済性の向上	施工精度の向上
	耐久性の向上	安全性の向上	作業環境の向上	周辺環境へ の影響抑制
	○			
	省資源・ 省エネルギー	品質の向上	リサイクル性向上	その他
		○		
その他の場合の目標				
5 開発体制 (該当するものに○、 開発会社等を記入)	単独	○	共同 (民・民)	
	共同 (民・官)		共同 (民・学)	
	開発会社	(株) オザワモクザイ		
	開発年月	開発 (改良) : 2020年4月		
6 問合せ先	会社名	(株) オザワモクザイ		
	担当部署			
	担当者	小澤 修		
	住所	奥州市江刺八日町2-3-8		
	電話	0197-35-2318		
	F A X	0197-35-6194		
	E-mail	<a href="mailto:info@ozawamokuzai.co.jp">info@ozawamokuzai.co.jp</a>		

注) ※は記入しないでください。

<b>7 新技術等の概要</b>	
<p>建築をする為の制限の多いログハウス（丸太組構法）に代わって、デザインはログハウスでありながら、軸組構法の設計基準に沿った設計ができる新しい形の木造建築物。長材が不要になるので、従来の欧米からの輸入材に頼らない岩手県産材だけでの建築が可能になる。</p>	
<b>8 新技術等の特徴</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ログ材を在来軸組構法に組込むことにより、外観はログハウスでありながら 制限の多い丸太組構法の設計ではなく、在来軸組構法の基準に従った設計とすることができる。</li> <li>・比較的短材を使用出来る為、国産材利用も十分可能になり間伐材の利用促進にもつながる。</li> <li>・丸太組構法では出来なかった増築も簡単にできるようになる。</li> <li>・従来の丸太組構法では内外装はワンパターンになることが多かったが、在来軸組構法になることにより、構造材や仕上材、全体のデザインなどのバリエーションを大幅に増やすことができる。</li> <li>・ログ材を構造材の一部として使用する事が出来るようになるので全体のログ材の使用量を少なくすることができる。</li> </ul>	
<b>9 施工方法または製造方法</b>	<b>従来技術等との比較</b>
機械によるプレカット。又は 手刻み。	大がかりな機械によるプレカット。
<b>10 施工単価又は商品単価</b>	<b>従来技術等との比較</b>
150,000円～300,000円/㎡（躯体材工共、使用材大きさによって変動）	
<b>11 適用条件・適用範囲</b> (施工上・使用上の留意点を含む)	<b>従来技術等との比較</b>
住宅や店舗、条件により学校等や特殊建築物にも適用可能。	

注) 記入しきれない場合は、適宜、該当欄を広げて記入して下さい。

12 残された課題と今後の開発計画				
全ての加工工程が機械化されていないので、コスト削減のための研究及び開発が必要。				
13 実証試験等の実施状況				
(問合せ先に照会願います)				
14 新技術等の効果	比較する従来技術等		他社 丸太組構法ログハウス	
項目	活用の効果 (該当するものに○や数値を記入)			比較の根拠
①経済性	向上 (     %)	同程度	低下 (     %)	
②工程	短縮 (     %)	同程度	増加 (     %)	
③品質	向上	同程度	低下	KD材
④安全性	向上	同程度	低下	実証実験
⑤施工性	向上	同程度	低下	
⑥環境	向上	同程度	低下	多くのCO2 固定
⑦その他	向上	同程度	低下	
15 他機関等での評価の有無 (複数記入可)				
・評価の有無	無し			
・評価機関及び評価制度	無し			
・評価又は登録年月日	無し			
・評価又は登録番号	無し			

注) 記入しきれない場合は、適宜、該当欄を広げて記入して下さい。